

2018年度 研修会報告 No.2 (7月～2019年3月)

◆「研修会」計画

回	開催日	講師	テーマ	会員
1	6月9日(土)	井上敬子氏	間違いやすい助詞の使い分け その2	14名
2	12月1日(土)	三井さや花さん 長阪たか子さん	海外事情(台湾生活で考えたこと) 日本語教育界をとりまく現状と課題、他	14名
3	2019年 2月16日(土)	小川れいさん 雨宮由里恵氏	日本語能力試験(JLPT)、支援のヒント 多文化が集う現場より	17名

*「～氏」は外部講師、「～さん」は会員

◆ 研修会報告 ◆

(1) 第2回研修会：12月1日(土) 13:30～16:30



講師：三井さや花さん



講師：長阪たか子さん



(写真：河内)

山梨日本語ボランティアの会 第2回研修会に参加して

会員 河内 彰

第2回研修会が、下記のような日程、内容で第2回研修会が行なわれた。

- 日時：平成30年12月1日（土）
- 会場：山梨県国際交流センター「アイオワの間」
- 参加者：14名
- 講師：三井さや花さん、長阪たか子さん。
- 内容：第1部「海外事情—台湾生活で考えたこと」（三井さや花さん）
 - 1) おもしろ日本語 in 台湾
 - 2) 年少者への日本語教育
 - 3) 中国語母語話者の漢字語の使用

- 第2部「日本語教育をとりまく現状と課題
—2018文化庁日本語教育大会の報告」（長阪たか子さん）
 - 1) 日本語教育を取り巻く現状
 - 2) 日本語教育に関連する外国人施策について（各省庁の報告）
 - 3) 日本語教育の人材の養成・研修のあり方
 - 4) 現実に外国人多住地域で起きている問題
 - 5) 漢字教育

第1部

三井さんは、台湾での生活と日本語教育についてお話をされた。実際に海外（台湾）で生活し経験したことに基づく内容で勉強になった。

1) おもしろ日本語 in 台湾

まず、台湾について面積や人口、日本語学習者数、言語について詳しく話された。

次に、台湾における面白い日本語表記について、具体的な例をあげて話された。

そして、台湾における、特に年少者（小学生等）への日本語教育の実情について話された。

日本語表記についてのお話は、大変面白かった。日本人が英語の文字や文章の衣服を着て、「かっこいい」と思っているのと同じようだと感じた。英語話者が見たら、不愉快になる、あるいは妙だと思える英語表記がまだまだ多い。それと同じように、台湾の日本語表記にもかなりの間違いがあることを知った。

2) 年少者への日本語教育

「台北日本語授業校」についてのお話では、日本語を教えるのは保護者で、教える内容は話し合いによって決めるということを知り、授業校の実情を知ることができた。現地校に通う子供たちが母語である日本語を忘れないようにするため、また、日本に帰国した時のことを考えて教えているのではないかと思った。

日本語教育について専門的に研究してきた三井さんにとっては、もどかしいものがあったのではないかと感じた。

3) 中国語話者の漢字語の使用

台湾の事情以外に、言語習得についてのお話もされた。

さらに、漢字（台湾は繁体）について、特に、中国語母語話者と日本の漢字の関係についてのお話は興味深いものだった。中国から日本に伝わった漢字であるが、「S語（同形同義語）・D語（同形異義語）・O語（同形類義語）・N語（日本独自語）」の4つに分類できることがわかった。

中国人に日本語を教える場合、漢字を使用して説明するほうがわかりやすいということを知ったことがある。ただ、同形異義語（漢字は同じでも意味が異なる）と日本独自語（日本語にしかない語）があり、中国語母語話者が日本語を学習するとき転移（既に学習した中国語が次に学習する日本語に影響を与える）があるので、気をつけなければならないことがわかった。

第2部

長阪さんは、「日本語教育をとりまく現状と課題—2018文化庁日本語教育大会の報告」ということでお話をされた。

1) 現状について

在留外国人の増加と日本語教師の増加について話された。日本語を教える人のうち、ボランティアが半数以上を占めていること、海外の日本語学習者も全世界にいて、かなりの数であることがわかった。

2) 日本語教育に関連する外国人施策について（各省庁の報告）

現在の日本語教育や在留外国人関係のことについて、各省庁の内容が話された。

日本語教育に関することは文化庁、在留外国人の法律に関することは法務省、外国人児童生徒の日本語教育については文部科学省というように各省庁に分かれていることで、お話を伺っていて、縦割り行政という感じを受けた。

3) 日本語教育の人材の養成・研修のあり方

日本語を教えるためには、日本語に関する知識、多文化共生についての理解、コミュニケーション能力などが必要であること。そのために、教える側が日本語についての研修を

することが大切である。

さらに、生活者としての外国人（地域に暮らす外国人）への日本語指導については、地域の外国人の実態を理解すること、彼らを取り巻く地域の実情や課題を知ること、外国人のための多様な学びや指導者・支援者の役割を理解することが必要だとわかった。

日本語教員養成課程というものがあるが、その養成課程では、日本語教育に関する知識・教授法・言語に関する知識・異文化コミュニケーションなど、さまざまなことを学ぶ。

それによって、日本語教員としての資質を高めることができる。地域で教える場合も、学習者のニーズに応じた日本語学習の方法について、指導者・支援者が研修をする必要がある。

いずれの場合も、教える側が日本語教育について研修をすることが大切だと感じた。

4) 現実に外国人多住地域で起きている問題

山梨県内でも在留外国人の数は増加傾向にある。全国的にも増加していて、地域によっては、同じ国の人々集まって、一つのコミュニティを形成しているところもある。

長阪さんのお話によると、

- ・外国人労働者に関する諸問題について実態を把握すること
- ・会社や工場、介護などで働く現場で、実際にどの程度の日本語が求められているのか調査もしくは研修などで聞き合うことが必要であること
- ・「やさしい日本語」を活用することが重要だということだ。

外国人労働者の受け入れ拡大に向けた「改正入国管理法案」が12月8日衆議院本会議で可決された。

外国人労働者の受け入れ拡大に向け在留資格を創設する「改正出入国管理法」は、人材確保が困難な産業分野で外国人労働者の受け入れを広げるのが狙いで、来年4月に施行されるという。

少子高齢化などのより、労働力が不足していると言われ、深刻な状況だという。甲府市内のコンビニで働く外国人を普通に見かける。工場、宅配便、店の店員など、私たちの身近で外国人が働いている。今後、日本国内で働く外国人は確実に増加することが予想される。在留外国人の周辺で起こるさまざまな問題にどのように対処するのであろうかと心配になる。

また、日本語教育の必要性も増していくと思う。

5) 漢字教育

最後に、「システムの教材設計・開発の手順」（「教材設計マニュアル—独学を支援するために」鈴木克明著 北大路書房）という考え方について話された。

長阪さんによると、

- ・学習者の興味を引く教材、自信が持てる・満足感のある教材を用意すること
- ・何が学べるか・どのように応用できるか出口を決めること

- ・漢字の構造を見極めて教え方を考えること
(部首からの意味の推測、音符から読みの推測、熟語の成り立ち、接尾語、接頭語)が重要だという。

さらに、自律学習につなげるための参考文献として、「語彙マップで覚える漢字・語彙 初級 1400／中級 1500」(徳弘 康代著 Jリサーチ出版)を紹介された。マップの活用により、言葉を互いに関連づけをさせながら学習できる内容である。初級・中級のレベルに応じた学習ができ、漢字と語彙を関連付けながら、楽しく覚えられる。学習者が自分で学習を進められるよい本だと感じた。

○研修会に参加して

日本語教育の今、在留外国人の問題、外国人労働者の問題など、さまざまな情報を得ることができ大変有意義であった。



(2) 第 3 回研修会 : 2019 年 2 月 16 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 00

2月のさなかというのに、甲府は最高気温 17 度を記録、まさに春の陽気です。総勢 18 名が集い、暖房を止めても室内は熱気ムンムンでした。

◆第 1 部 「日本語能力試験(JLPT)、支援のヒント」 講師：小川れいさん

小川さんは本会発足時からの会員さんです。近年、日本語能力試験を受けたいという受講者が増えています。そこで、現役の日本語教師としての長年の経験を基に、文法指導に焦点を当て、実例をあげなが支援のコツを披露していただきました。

◆第 2 部 「多文化が集う現場より」 講師：雨宮由里恵さん

雨宮さんは県国際交流協会でお仕事をされています。本会は発足当初、協会内に事務局がありました。10 年後に独立して以降も、本会の紹介や受講者の申込等で協会には引き続きお世話になっています。雨宮さんとも長いお付き合いですが、自己紹介を伺ってますます身近になりました。

今回は協会の活動内容の紹介、昨年 10 月の「国際フェスタ」開催に向けてのご苦労や裏話、そして、外国人労働者に対する法整備の実態など、興味深いお話を聞かせていただきました。



★アンケートより

～第1部～

○JLP 文法の教え方が分かりました。具体的でわかりやすく大変勉強になりました。よく研究されていることが分かりました。(同意見多数)

○教え方も教材も参考になりました。(同意見多数)

○現場で教えている先生のお話を聞いて、大変刺激になりました。ボランティアでは教室で教えるようにはいきませんが、教え方の流れがとても参考になりました。

○生徒さんたちは文法をマスターしたいとの要望が一番強いと知りました。私も基礎の大切さを再認識し、学んでいかなければと思いました。

～第2部～

○国際交流協会の役割、イベント等、短い時間に内容濃く、深いお話でした。また日本が外国人を受け入れることが増え、それについての課題、問題等が分かり、考えさせられました。(同意見多数)

○国際交流のことが良く分かりました。今後の来日外国人についての政策はどうなるのでしょうか？

○国際交流協会の一年を通しての事業内容は外国の方の為にしていると思いました。

(報告/写真：稲谷)

★第1部「日本語能力試験、支援のヒント」

講師：小川れいさん



★第2部「多文化が集う現場より」

講師：雨宮由里恵さん(県国際交流協会)

